



9月25日、青森県総合社会教育センターに一般財団法人日本ベップトーク普及協会コンテツツ開発部部长であり菅公学生服株式会社営業部長の堀寿次氏をお迎えして、「やる気を引き出す言葉ベップトーク」と題しまして御講演をいただきました。昨年を上回るたくさんの方々に参加して頂き、研修・健全育成委員会を代表して、心から感謝申し上げます。



講演は「励まし方を学ぼう」ということで、何度かお隣の方とベアワークをしながら進んでいきました。先生は、どんな言葉をどんな風に伝えるか、これがこれからの学校生活に必要なものという思いでベップトークの講演を始められたそうです。調査によると、人はお金や学歴よりも、多くのことを自分で決めて生



きていくこと、つまり自己決定が一番の幸せなのだそうです。しかし、子供たちは失敗を恐れて自分で傷つくのが嫌なので、なかなか決めることができません。チャンスを掴むには自分で決めることが大事であり、その勇気を出させるために、スポーツに於いては、選手と監督、学校では生徒と先生、家庭では子供と親、選手がスポーツの技術を磨くように、リーダーは言葉の力を磨くのだとお話し下さいました。

試合直前の選手にどのような声掛けをするか：ベップトークでは短く、わかりやすく、肯定的な、魂を揺さぶる前向きな背中の一押しをします。

後半は、ベップトークのやり方について学びました。そして最後には、卒園を迎える前に転校する園児の卒園課題である跳び箱10段跳びに挑戦する動画が流されました。何度も失敗し、無理ではないか、と思われた時、周りで見えていた園児たちが「出来る」とその子を囲んで励ましました。するとどうでしょう、明らかに無理に思えた10段を見事成功させたのです。

一番の幸せ、自己肯定感を高めるためにも、言葉の力で自分が幸せに、そして家族を、周りを幸せにしてあげましょう。堀先生のご講演の中は、笑いあり、感動で涙ありの感情を揺さぶられるものでした。本当にありがとうございました。



## 青森県高P連広報紙づくり研修会

### 「実践『まわしよみ新聞』で学ぶ紙面づくりの「コツ」

6月25日、「広報紙づくり研修会」が青森県総合社会教育センターで開催されました。「学校と家庭を結ぶ広報紙について研修することにより、編集技量等を向上させながらPTA活動の活性化に役立てる。」という開催趣旨のもと県内各校より39名が参加しました。会場横に設けられた展示室には、前年度の各校広報紙が置かれ開会前から多数の参加者が閲覧していました。

開会行事では、委員長挨拶の後、事務局長から今年度の広報紙コンクールの審査基準について説明がありました。

次に昨年度青森県高P連広報紙コンクール最優秀賞校の五所川原農林高校より発表があり、PTA活動の様子が紹介され、広報紙づくりに活かされていました。



その後、東奥日報社編集局整理部整理委員三上朋徳氏から「実践『まわしよみ新聞』で学ぶ紙面づくりのコツ」というテーマにて



お話をしていただきました。

次にまわしよみ新聞の作成にうつり参加者は、8つのグループに分かれ県内外の新聞から各々が気になる記事を複数選び、お互い選んだ理由を紹介し合いその中でトップ記事を選びタイトルをつけ、1枚の新聞を完成させました。最初は、お互い初対面を緊張していましたがすぐに打解け話し合いをしていきました。その中で各自が選んだ記事から視点の違いを知ることので今後の広報紙づくりに生かしたいと思われました。昨年より参加人数が減少しているので、来年度は、数多くのご参加をお待ちしています。(調査広報委員長 外崎 美光)

## 青森県高P連進路指導研修会

### 「私の進路決定」～気象予報士への道～



11月6日、青森県総合社会教育センターにて「令和6年度青森県高等学校PTA連合会進路指導研修会」が開催されました。講師には株式会社吉田産業海洋気象事業部所属の吉田篤さんをお招きし、「私の進路決定」～気象予報士への道～という演題で講演をして頂きました。

吉田さんは神奈川県横浜市の生まれで北里大学大学院獣医学産科卒業。現在、毎週月～金曜日青森テレビ「わっち!!」でお天気キャスターとして出演しています。さらに今年4月から毎週月曜日のFM青森の番組「スマイル」にも気象解説等で出演しています。幼少期より動物や自然が好きで、動物と触れ合える仕事をしたいと思いうちに、なんと血が苦手ということに気付いたそうです。

卒業後は動物とは無関係の測量会社へ就職。天気は左右される外での作業をこなすうちに天気予報に興味を抱いたのが気象予報士を目指すきっかけの1つにはなっていると話されました。最初から気象予報士になるということではなく、これまでのさまざまな経験を通じて今に至ったとのこ



とです。これから自分達の未来に向けて活動していく子ども達も、進学・就職した先で様々な経験をしていきます。そして成功・失敗、良いこと・悪いことなど様々な出来事を知識として蓄えていくことは無駄ではなく大切なことだと思われました。貴重なお話ありがとうございました。(進路対策委員長 三代川 将仁)

# 田名部智之氏 全国高P連会長に就任



田名部智之氏  
八戸市出身

## 経歴

平成30年度～八戸工業大学第一高等学校  
PTA会長（現在7年目）  
令和2年度～令和3年度 青森県高P連会長  
令和3年度 東北地区高P連会長  
令和3年度 全国高P連理事  
令和4年度～令和5年度 全国高P連副会長  
令和6年6月29日 **全国高P連会長就任**

青森県高P連会長の2年間はコロナ禍で通常のPTA活動が叶わず、東北地区高P連青森大会の中止など苦渋の決断を余儀なくされましたが、常に力強いメッセージを発信し続け、私たちのPTA活動を牽引して頂きました。

温厚な表情とやさしい人柄ではありますが、的確な判断力とぶれない発言で皆を引きよせる強いリーダーシップを持ち合わせ、令和4年度に全国高P連副会長に就任、今年度の総会で満場一致で新会長に選出されました。

アイスホッケーは小中高大を通して選手として活躍、大学卒業後も地元八戸の実業団チームで活躍し、現在も多忙な仕事の合間をみつけ、試合に出る腕前でもある。

## 東北・全国大会記録ダイジェスト

### 東北地区高P連大会



研究協議



オープニング  
「最上川」独唱



記念講演



受賞者代表挨拶



情報交換会



青森県受賞者

### 全国高P連大会



田名部会長挨拶



アトラクション 茨城県立大洗高等学校



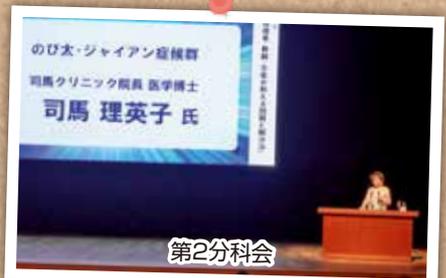
記念講演 三所ノ関親方



閉会行事



全国表彰者  
葛西前県連会長



第2分科会

# 地区協議会だより

## 東青地区協議会

東青地区協議会 会長 川村 隆 義

令和6年7月8日(月)東青地区協議会研修会が青森北高校にて開催されました。今回は、食育「集中心・学力アップのための食事」を研修テーマに「A TVわっちTheキッチン」に出演されている株式会社ヤマイシフードコーディネーター木村圭司郎氏を講師に迎え、調理・試食・片付け・質疑応答が行われました。木村氏は、「あおもり食名人」としても活躍しており、県産食品の美味しい食べ方や料理に関するちょっとした工夫やアイデア等もお話しいただきました。約4時間の研修でしたが、和気あいあいとした楽しい雰囲気の中、アップルポークソテーなど4品を調理。テーマの集中心・学力アップのためには、体調を崩さない事が一番重要である事と地産地消の重要性を再認識できた研修会となりました。



また、毎年実施している青森ねぶた祭の巡視については、昨年度の振り返りの際に実施内容の見直しを求める意見もあり現在検討中ですが、各校とも任意参加にて例年通り運行コースの見回りを実施しました。これからも各校が連携し楽しく充実した東青地区協議会のPTA活動となるよう努めてまいりますので、皆様のご理解ご協力を宜しくお願いいたします。

## 中南地区協議会

中南地区協議会 会長 小林 智香子

令和6年1月26日(金)、弘前プラザホテルにおいて加盟9校から約70名が参加し「中南地区協議会研修会」が盛大に開催されました。講師には県高P連会長(現顧問)であり、青森朝日放送株式会社葛西孝之氏をお迎えして「子どもたちの輝ける未来のために」健康育成と進路指導の視点からと題して講演を頂きました。講演では以下の四つを今日のメニューとしてお話くださいました。

- (1) チェックイン  
10分間で各校PTAの悩みなどをテーブルごとに情報交換。代表して弘前高校三浦真介PTA会長から弘前高校PTAの特徴などについて発表。
- (2) 広がる大麻  
昨年11月の東奥日報記事を挙げ、青森県の大麻所持等での38人の摘発には高校生も入っており、人ごとではない状況にある。参加者はスマホで全国高P連HPを参照し、薬物乱用について危機感を持ちました。
- (3) 少ない資金で合格を  
大学受験には思いのほか経費がかかること、経費削減のためにどうすればよいか。
- (4) 保護者も複雑な受験制度を勉強する  
①総合型選抜には子どもの長所を見つけて接する。志望理由書や自己申告書は思ったより時間がかかるので事前準備をする。  
②受験日程プランはスケジュール表を作成すること  
③県外進学の場合にはその後の生活も考え、不動産屋をうまく利用する。  
④2025年の共通テストから新たに出题科目として設定される教科「情報」について、現段階では入試配点に大学ごとに差があるので注意する。
- (5) 楽しく生きましよう  
未来のため、子どものために親も汗をかきましょう。閉会式では、白濱副会長(弘前南高校校長)から、「成績がよい『よい社会人』とはかぎらない、ちゃんといかない方が後に活躍することもある。最終的に独り立ちできればよいと考える。次年度も本会に力を貸していただきたい、との挨拶があり、講演後の熱気を残して終了しました。

この日の研修会を準備していただきました弘前南高校の皆様、講演していただいた葛西孝之氏に深く感謝申し上げます。



## 三八地区協議会

三八地区協議会 会長 河村 泰 輔

三八地区協議会では、10月4日にYSアリーナ八戸多目的室で研修委員会、健全育成委員会合同研修会を開催しました。

元第57南極観測隊調理隊員の渡貫淳子氏に、「食即全道から学ぶ健全育成の在り方」と題して講演をしていただきました。

講演では、渡貫氏の自己紹介、調理隊員を目指すことになったきっかけ、基地での共同(調査)生活、残った食材は全て持ち帰らなければならないことから調理に関する工夫、自身が対人トラブルに巻き込まれたときの対処法などを話していただきました。

参加者からは、渡貫氏の話し(方言)に親しみやすく楽しく聞くことができた。あつという間の2時間だった。当たり前と思っている生活を改めて考えさせられるお話であった。是非、子供達にも聞かせてやりたい。といった感想があり、有意義な時間を過ごすことができたと思います。

最後に渡貫氏が高校時代に恩師からいただいた言葉を添えて終わりたいと思います。

### Noの理由よりYesの可能性を



# 地区協議会だより

## 西北地区協議会

会長 笠井 理 睦子

10月8日、プラザマリユウ五所川原を会場に、西北地区協議会研修会を開催しました。参加者は総勢57名で、講師にはお天気会社アップルウエザー代表取締役 工藤 淳 気象予報士・防災士を招聘し、「想定外の気象災害と家庭の備え〜今災害が起こったら大切な人を守れますか?」を演題に、近年頻発している気象災害に家庭ではどのような備えが必要なのかを学びました。

初めに、気象災害が起こった際に発せられる気象情報は年を経るごとに、名称が変わっていることを知りまし。また、気象情報は意味を明確に知ることによって初めて作用することから、情報を受け取る私たちの認識を改める必要があると感じました。

次に、過去の気象災害の経験から防災対策について学びました。防災の基本理念は「自助・共助・協働」であり、第一優先は自分の命を守ること。また、防災対策として①食料等の備蓄、②ハザードマップの確認、③家具の固定、④避難所に歩いて行く、ということが重要であると知りまし。これらは誰もが耳にしたことがある内容だと思ひますが、参加者の反応を見ると実際に行つたことがある人は少ないように感じました。

以上のことから私たちは、災害が「まさか」起きないだろうという考えから、「もしかしたら」起きるかもしれないという考え方に変える必要があります。この考え方を実践的に学ぶために「防災士」資格を取得するといお話もありました。防災士は阪神淡路大震災において、一般の方が救助を行った経験から、専門的な防災の知識を持つ人を増やすために始まつたようです。しかし、日本全国で防災士は30万人に満たないため、いつ起こるか予測できない気象災害に備えるべく防災士を増やし、意識を変化させる必要があり、それがわかりました。今回の研修会は気象災害についての知識を深めることができ、防災意識を改めて捉えなおす良い機会となりました。



## 上十三地区協議会

会長 太田 正 幸

11月4日(月) 十和田工業高校の調理室において、令和6年度上十三地区協議会健全育成・研修合同委員会の研修会が開催されました。今年度は「食の安全」をテーマに、十和田市在住の郷土料理・発酵料理愛好家である矢部聖子さんを講師にお迎えし、「おから」を使った手作り味噌の仕込み体験をしていただきました。

大豆を煮て使うのではなく「おから」を使うことで時間の短縮にもなり、より手軽で家庭で再現しやすいこと、そして何よりもフードロスの削減につながることから、今回は「おから味噌」作りとなりました。講師の矢部さんは、地域で料理教室を開催されたり学校等でのワークショップで講師を担当されたりと、普段から精力的に活動されています。ユーモア溢れる語り口で添加物の入らない手作り味噌の魅力を存分に伝えてくださり、その歴史や栄養成分についてもお話しいただきました。味噌を仕込む作業では麴などを手で揉み解しながら混ぜていく行程がありますが、これらは是非、家で子どもたちとおしゃべりをしながら行つていただきたい作業でした。今回仕込んだ味噌は半年〜一年ほど各家庭で熟成させ、食べることができるようになるそうです。

この度の研修会が楽しく、有意義に開催出来ましたのは、講師の矢部さんと各校からの参加者の皆様のご協力があったからです。関わってくださった全ての皆様に感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



## 下北むつ地区協議会

会長 辻 雅 也

下北むつ地区協議会研修会は、11月29日(金)に第一回研修会を予定しております。むつグランドホテルにおいて、日本ペップトーク普及協会から米田利希子様を招き、「ペップトーク」〜やる気を引き出す言葉がけ」と題してご講演いただきます。ペップトークとはアメリカで監督やコーチが競技の前に選手を励ますために行っている「短くて」「わかりやすい」「肯定的な」「魂を揺さぶる」言葉がけです。ポジティブな言葉がけが選手や同僚の心や脳に影響を与え、潜在能力を引き出すことも可能だといわれています。スポーツ選手だけでなく、私たちの日々の生活の中でも大いに活用できるコミュニケーションツールです。特に、親子関係においては、言葉の力で互いを励まし、絆を深める上で非常に有効です。自己肯定感を高め、やる気を引き出す「言葉がけ」について拝聴したいと思ひます。

また、来年度の県高P連県大会は、下北むつ地区で開催されます。そこで6月に行われた十和田大会に下北むつ地区協議会として、前日から参加させていただきました。大会準備のお手伝いをさせていただきました。今年度から導入された二次元コードによる受付システムにより事前に情報登録を行うことで、当日スピーディでスムーズな受付が可能となりました。また、前日仕込み、導線を考えての設営など大変参考にになりました。来年度に向けて準備を進めてまいりたいと思ひます。

今後とも学校の枠にとらわれず下北むつ地区協議会一丸となり、PTA活動を活発なものにしていきたいと考えておりますので、皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。



# 「応援されるチーム」

青森商業高等学校 バスケットボール部

今年、隣県出身の大谷翔平選手が史上初の50-50を成し遂げ、さらにはドジャーズをWS制覇に導いた。121年前に誕生したWSの歴史の中でも、私たちを含め世界中のファンを魅了し、スポーツの楽しさや素晴らしさを伝えてくれた特別な1年だったように感じる。

本校は今年122周年を迎え、これまで卓球部やレスリング部をはじめ、数多くの部活動が大リーグに負けない盛り上がりを見せてきた。その諸先輩方の青商魂を受け継ぎ、私たち女子バスケットボール部は今年、122年の歴史のなかで念願の県高校



総体初優勝、インターハイ

初出場を達成することができた。

私たちの特徴は、男女51名（男子23名、女子28名）が、同じコートで同じ顧問と同じ目標の下、男女一丸で活動していることだ。勝つても応援されなければ意味が無い。「感謝・謙虚・できる」を合言葉に、純粋に「本気で」取り組むことの素晴らしさを追求し、「応援されるチーム」を目指している。

「チーム青商」。日々共に頑張っている他の部活動や生徒、教職員と共に、「多様性」で片付けてはならない人と人との「つながり」を、どの高校にも負けず魅せていきたい。日々支えてくださる多くの皆様に感謝し、大谷選手のように、我が部がひとりでも多くの人に勇気や感動を与えられる存在になれるよう、これからもこつこつと活動していきます。このような機会をくださった県高P連様、本当にありがとうございました。

(教諭 小野 公太郎)



## 頑張っています 我が部活

# 「インターハイへの道」

八戸工業高等学校 卓球部

八戸工業高校卓球部では「人間力の向上」を最大の目的に、「インターハイで優勝すること」を目標に頑張っています。

特徴的な取り組みは選手自ら考え、選手自ら作り上げる部活動の運営です。週1回の大ミーティングを開き常に改善を繰り返して、今必要なものは何かを全員で考えます。

そして、顧問は環境整備に力を注ぎます。

部員は入学してから最後のインターハイ予選までの時間は2年2カ月しか無く、平日の練習時間は2時間程度の普通の公立学校では目標を達成するために、無駄な時間を使う訳にはいきません。そこで、顧問一人で行っていた作業を細分化し専門的な部分は専門家へ任せ、チーム八戸工業高校としてスタッフ全員でチームを支えることにしました。

卓球に必要な動きや筋力を鍛え、怪我の予防や処置してもらおうスポーツトレーナー。

科学的にメンタルを鍛え、どのような状況下でも平常心を保つ訓練をするメンタルトレーニンングコーチ。

また、外部コーチ陣によるマンツーマン指導を行うことで選手は全ての時間を自分



の練習に費やすことができます。多くのスタッフの協力で今年の県高校総体では女子学校対抗で優勝することができました。そして長崎インターハイでは、県立高校で唯一5位に入賞することができました。目標には一歩届きませんでしたが、選手達は本当に良く頑張りました。保護者、学校関係者の皆様に心より感謝申し上げます。(卓球部顧問 大山 幸雄)



**校 介**  
**盟 紹**

**青森南高校における新たな取組について**  
青森南高等学校 校長 久保田 千夏

今年4月に開科したグローバル探究科は、理系・文系のどちらにも進学できるカリキュラムの中で、1・2年次で週3時間の探究活動「グローバル探究」に取り組み、予測できない社会を生き抜くための探究心や多様性を尊重する心、批判的思考力、コミュニケーション力を身に付けるとともに、2年次には、海外フィールドワークを行うなど、国際的な視野を持ち、時代をたくましく生き抜く人材の育成を目指しています。



また、本校は、9月に「国際バカロレア（IB）ディプロマプログラム（DP）」の認定校となりました。IBは、ジュネーブに本部のある「IB機



構」が提供する国際的な教育プログラムで、探究的かつ協働的な学びを基盤とした教育活動を展開することで「多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやり」に富んだ若者の育成」を目指す全人教育です。

本校では、グローバル探究科に在籍する生徒が2年次から「IBコース」を選択することで、IB教育を受けることができます。なお、このカリキュラムを2年間履修し、最終試験を受け、所定の成績を収めると、国際的に認められる大学入学資格（IB資格）が取得可能で、国内・国外に進路の幅が広がります。

**校 介**  
**盟 紹**

**クリエイティブで地元を変える**  
三戸高等学校 教諭 赤井翔太

今年度が創立98年目であり、もうすぐ創立100年の節目を迎える本校は、1学年1学級の「地域校」である。そこで、2023年度入学生から、全国からの入学生を募る「全国募集」を開始した。それと同時に、本校での学校生活での学びをより豊かにするための方策の一つとして、三戸町支援のもと設立されたのが「クリエイティブ部」だ。

クリエイティブ部は「クリエイティブを学んで作って、クリエイティブで地元を変える」をテーマに県内外で活躍するクリエイターの指導のもとワークショップ形式でコピーライティング、写真撮影、デザイン、イラスト、動画



撮影、情報発信などを学習している。

「行くよ、テッペンに登山？いいえ登校です〜」「ありあまる出場枠〜少人数だから、できることいっぱい〜」これらの言葉は、昨年入部したクリエイティブ部員が考えた三戸高校のキャッチコピーである。三戸高校をPRする上で、三戸高校の特徴とは何か、全国募集にあたり他校と違うところは何か、単に良いところを発信するのではなく、一般的には短所とも言えることも、言葉の力で強みに変えて発信する。ポスターを作成する過程で生徒たちは「創造すること」の大事さと面白さを学んでいった。

その後も、町のコミュニティスペースづくりの支援や、CMづくりといった創造的活動を続けている。この活動により、町からの協力依頼がくるようになった。現在、それらは探究学習や課外活動として、生徒の学びの機会になっている。このような豊かな地域連携が、本校の魅力である。



**編 集 後 記**

今回は、各委員会主管研修会、東北大会および全国大会関連の記事を中心に構成いたしました。本紙を通じて子ども達の学校生活の様子を紹介する記事を見て改めてPTA活動の重要性を再認識しました。

この1年間、微力ではございますが調査広報委員長として「広報紙つながり」に携わることができ、また多くのPTA、学校関係者、高P連事務局の皆様と交流できましたことを心から感謝申し上げます。

調査広報委員長 外崎 美光

# 安全互助会だより

—— 明るく 強く 逞しく ——



## 令和6年度 上半期事業費支出内訳

令和6年4月1日～令和6年9月30日

### ◆ 事業費 2,705,213円

<b>1</b>	<b>学校安全普及充実事業費</b>	<b>600,000円</b>	
(1)	8月5日 助成金支出 (地区協議会 安全教育活動費)		300,000円
(2)	8月5日 助成金支出 (青森県高等学校文化連盟)		100,000円
(3)	8月5日 助成金支出 (青森県高等学校体育連盟)		100,000円
(4)	8月5日 助成金支出 (青森県高P連安全教育活動費)		100,000円
<b>2</b>	<b>共済金等給付事業</b>	<b>2,046,363円</b>	
(1)	死亡共済金	0件	0円
(2)	後遺障害共済金	1件	97,500円
(3)	負傷共済金	102件	1,948,863円
(4)	香 料	0件	0円
<b>3</b>	<b>その他事業費</b>	<b>58,850円</b>	
(1)	7月18日 安全互助会だより62号		58,850円

◎ 青森県高等学校安全互助会加入生徒数  
 全日制23,758名 定846名 特138名 通530名 総数 25,272名

全日制 (専攻科を含む) 600円  
 定時制・特別支援学校 250円  
 通信制 100円

共済掛金は来年度も同じです。

### 助成金事業

## 第45回県高総文祭青少年赤十字部門大会



令和6年10月19日(土)、第45回県高総文祭青少年赤十字部門大会が青森中央高校で行われました。部門テーマ「赤十字 つなげ育む普遍の価値」のもと、日頃の活動の成果を発表しました。中でも救急法実技コンクールは高文連加盟以来、全国に先駆けて始められたもので、今年で35回目を迎えました。

毎年、県内各地で青少年赤十字部員を対象に救急法講習会が開催されます。今年には300余名の生徒が救急法基礎講習を受講し、学科および実技検定に合格しました。その中から地区代表として、本コンクールに出場したのは競技順に、弘前中央、木造、八戸西、七戸、青森山田、青森明の星、弘前、千葉学園の8チームでした。



実技は、地震によって倒れた家から救出された傷病者への心肺蘇生法、出血や骨折などの手当を行う包帯法、固定法の3種類が一元化され、ステージ上で2チーム同時に競技しました。体育館全体が緊張感と静寂に包まれる中、どのチームも練習の成果を十分に発揮し、見学、応援していた生徒に感動を与えていました。結果は木造高校の3年連続最優秀賞獲得となりましたが、出場8校の弛まぬ努力を讃えたいと思います。最後に、今後とも青少年赤十字部へのご支援をよろしく願います。

(青少年赤十字部委員長  
安江道子)